



# 覚醒

12月2日

Sudden Fiction Project

高階 經啓  
hirotakashina

## 12月2日のおはなし「覚醒」

---

深夜、真っ暗な中で目を覚ます。  
妙にくっきりと頭が冴えている。  
ふだんあまりそんな時刻に目を覚まさないので、  
少し不思議な気がしている。

目をあけてからしばらくして、そこが真の暗闇だということに気づく。どんな微かな明かりもない。鼻をつままれてもわからないなどという表現があるが、鼻をつままれたら鼻をつままれたことはわかるだろうに、などと考えながらも光を求めて忙しく視線をさまよわせる。

本当に何も見えない。あの表現を言い替えるなら、鼻をつまもうとしている奴の手がすぐ目の前にあってもわからないというところ。ただただ黒々と果てしなく深い闇の中、微かな陰影すらない。だからそれが夢だと分かる。ぼくの寝ている部屋では真の暗闇なんてものがあるはずもないから。

夢なら夢でかまわないが、とぼくは考える。そうとなったら真の暗闇でしか見えないものを見たいものだ。脳内閃光と呼ばれる原始的な図形。あるいは視覚の欠落を埋めようと脳が描き出す幻覚。頼るべき一切の情報がない中でぼくの脳は何を描き出すのだろう。

しかし次の瞬間ぼくは苦笑いをする。その結果がこの暗闇なんじゃないか。自由に描き出していいのに今晚の夢はわざわざ真の暗闇の中にいるという状況を用意したわけだ。真の暗闇の夢を見せるというのはどんな意味があるのだろうか？ そう思った途端、遠くに小さな光の点が見える。

光だ。と思う間もなくそれはものすごい勢いで近づいてきて、そうこうするうちに近づいていたのは光ではなく自分の方だったことがわかる。すさまじいスピードで光めざして移動していたのである。だんだん明かりが近づくにつれ、いろいろなものの影が見えるようになってくる。

左右を流れるように過ぎ去って行くのは森だ。森の手前には交通標識があって、落石注意やこの先カーブありなどの他に、鹿にも猪にも見えるようなシルエットが描かれた野生生物への注意を促す標識や、制限速度80,000kmという冗談のような標識を見てぼくは首をひねる。

そう。ぼくはクルマの助手席あたりにいて何するわけではなく窓の外を眺めている。あまりのスピードのためシートに押しえつけられているような不自由さはあるが、別に身動きできないわけではない。ただあまりのスピードに息を詰めて固まっている。運転手が誰か見ることもできずにいる。

やがてクルマは光のすぐそばまで来る。それは意外にも小さな店のネオンサインだ。さほど明るいわけではない。うねうねと読みとりにくい文字を目で追うと「underground」と書かれている。不意にクルマから押し出されて外に出る。乱暴なと思って振り向くとそれはクルマではなかった。

それは鹿とも猪ともつかぬ巨大な生物で、ぼくはその生き物の左目の中に座っていたのだ。運転手など最初からいなかった。ぼくはこの巨大生物に運ばれていたのだ。ぼくがお礼を言えればいいのだろうか、それとも一方的に拉致されてきたのだろうかと考えているうち巨大生物は姿を消した。

後ろからいきなり声をかけられてびっくりして振り向く。その様子がおかしかったのか声の主は口元をおさえてけらけらと笑う。女だ。女は色とりどりに群舞する蝶の模様がついたワンピースに、極彩色の蝶をあしらった髪飾りをして、婉然と微笑んでいた。なぜかぼくにはそれが巨大生物の変身だとわかる。

ようこそアンダーグラウンドへ。ぼくに視線をからみつけるようにして女は囁く。見たかったものは、みんなここにあるわ。そしてネオンサインの下のドアが開く。そこには真の暗闇が口を開けている。ぼくの足はすくんでいるのに、まるで放り込まれるような勢いでぼくはその扉をくぐる。

そして目を覚ます。ぼくはベッドの上において目を開いている。カーテンの縁からうっすらと街灯の明かりが漏れて天井の一部が明るい。ここには真の暗闇はない。ただ耳元には女の声がはっきりと残っている。ようこそアンダーグラウンドへ。見たかったものはみんなここにあるわ。

(「underground」 ordered by イチ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

## 感謝の言葉と、お願い&お誘い

---

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひょっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

## 覚醒

<http://p.booklog.jp/book/39868>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39868>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39868>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier ( <http://p.booklog.jp/> )

運営会社 : 株式会社paperboy&co.